

昭和こじょう会便り



ぬいぐるみ、 テディベア7匹、 パッチワークの敷物
28期 石黒 良江さんの作品

1年を振り返って

昭和鯨城会会長眞野晃（30期国際A）

平成31年4月に会長に就任してすぐ5月には元号が令和元年にかわり、気を引き締まる思いで会長職を担当しました。早いもので1年が経ちます。経験不足の会長でしたが会員の皆様の寛容なお気持ちと激励を支えにやることができました。この間、10月には「作品展」や11月には2年ぶりの「16区フェスティバル」があり会員の皆様と交流ができました。諸行事にあたって顧問や役員の方々のご尽力に預かりましたことに深く感謝申し上げます。

令和3年は昭和鯨城会が30周年を迎える年となり、記念事業の実行委員会が発足しました。記念行事に多くの会員が参加して祝えることができますよう祈念しております。

行事レポート①

栗きんとん作り

30期（陶芸）松栄 山口 勝弘

10月17日（木）、昨年同様の昭和社会福祉協議会にて栗きんとん作りを行いました。

多くの男性の参加によって、何か男の料理教室の雰囲気如く、和気あいあい楽しめました。

いつもご指導をいただき大野俊介様のレシピをもとに、作成手順の説明からスタートします。

蒸した栗から渋皮を残し、スプーンで少しの実も残すことなく取り出してすり鉢ですりつぶし、裏ごしします。次に砂糖を加えて過熱し、栗あんを作り上げます。

そして絹の布を用いて型づくりをし、完成となります。

熱が不足すると柔らかく、強ければ焦げてしまい、程よい硬さにするのが本当に難しい。

あらためて、物作りの難しさを実感しました。

いかにも料理教室らしく、皆さんのエプロン姿は様になっていて、真剣さが伝わってくる一日でした。おいしい栗きんとん、大野さんありがとうございました。



大野講師と材料栗の配分



栗の中身を取り出し



栗の実を裏漉し



皆で試食会



行事レポート②

紅葉の白鳥庭園茶会

32期(地域A) 松栄 水野 晃

11月12日(火)午前10時、秋晴れのもと地下鉄名城線神宮西駅の4番出口に集合した。今回の参加は14名で、ワイワイ会話をしながら秋晴れのミニハイキングを楽しむ。

白鳥庭園には、敬老パス提示にて100円で入場が可能であり、誠にありがたい。

庭園内の池には鯉が泳ぎ、浅瀬ではメダカがいて、都会とは思えぬ空間が味わえた。それにしても、透き通った水は、湧き水か地下水を汲み上げているのかな。

庭園内の日当たりの良い部屋で『知っておこう』とプリントされた資料を見ながら、栗橋さんに作法を教えて頂き、麩饅頭と抹茶をいただく。

抹茶は何度も経験しましたが、その作法は難しいものの、様式美を大事にする日本の文化を改めて感じる事ができました。

その後懐石料理をいただき、和やかなうちに散会となりました。

行事の企画・準備等、毎回の事ながらお世話をして頂いている幹事さんに感謝しております。



「亭主」の栗橋顧問から作法を説明



抹茶を頂いた後に「懐石料理」を頂く

行事レポート③

第2回鯉城会 16区フェスティバルに参加して

32期（生活B） 広路 高島 善行

11月20日（水）、稲永SCにおいて16区の鯉城会会員約630名が集い、フェスティバルが開催されました。昭和鯉城会からは29名の会員が参加しました。

競技は全員参加の「〇×クイズ」で始まり、「パン食いリレー」では、男女がペアになって手をつなぎ、パンをくわえました。

昼食後のアトラクションでは、民謡クラブの卒業生を中心に、大きく輪を作りながら、「炭坑節」「河内おとこ節」、「大名古屋音頭」を皆で楽しく踊りました。

「負けるが勝ちジャンケンポン」競技では、司会者とのジャンケンで勝ってしまった人が、残念そうにその場に座り込みました。

最後の競技「玉入れ」では、3.3mの高さの籠になかなか玉が入らず、苦戦しました。

そして競技終了後は、アトラクションのフォークダンス「オクラホマミキサー」を、半世紀以上に踊ったことを思い出しながら恥ずかしくも楽しく踊り、大いに盛り上がり閉会しました。

残念ながら昭和鯉城会は、3位までには入賞できませんでしたが、競技スケジュールに余裕があったこともあり、楽しい一日を過ごすことができました。

打上げはニハチ御器所店で、10名の参加にて盛大に行いました。



参加者有志による「日本の民謡」



選抜選手による「玉入れ」



有志による「フォークダンス」



昭和鯉城会の「応援タイム」



昭和鯉城会の皆さん

行事レポート④

コンサート鑑賞 & 忘年会

32期 (健康B)吹上 伏屋 満

12月12日(木)、令和最初の昭和鯨城会忘年会が開催されました。当日は19名の参加予定でしたが、残念ながら14名となりました。

宗次ホールにて、『あなたに贈る音楽の花束』を鑑賞。これは、1980年に愛知県立芸術大学の同窓生により結成された弦楽合奏団である、名古屋パストラーレ合奏団の9名による演奏で、最初はモーツァルト:弦楽のためのシンフォニア・ト長調より第一楽章/第三楽章で始まり、最後のアンコール曲までを鑑賞、至福の時間を過ごせました。



その後、会場を東急ホテル 2F(南国酒家)に移して、中華料理に舌鼓を打ち、ビールで乾杯。和やかな雰囲気の内、一年の歩みを顧みながら話が弾み、時の流れが短く感じました。

会費3,000円で本当にお値打ちな忘年会ができて幹事の皆様には感謝で一杯です。一年間ありがとうございました。そしてご苦労様でした。



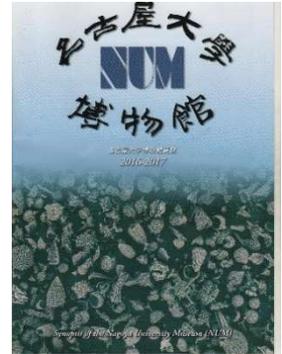
会員の広場

博物館を楽しむ NO3 愛知県の大学博物館

31期（地域A） 松栄 細野 博行

大学には学問の特徴を表した博物館が付属している。名古屋市内には名古屋大学と南山大学にあり無料で開放している。周辺は緑が多くウォーキングも楽しめるので出かけて下さい。

名古屋大学は千種区東山キャンパスの古川記念館 2階 3階に博物館がある。2階は考古学、地学、宇宙科学など幅広い展示となっている。3階は在学したノーベル賞受賞者の研究足跡や人柄を紹介している。青色LEDの天野教授をはじめ野依教授、益川教授など受賞者が7名もいる。



昭和区山里町にある南山大学はR棟地下に人類学博物館がある。考古学では市内大須にあった長さ100mもある二子山古墳の調査を実施し発掘出土品を展示している。民族学ではフィールドワークの成果としてオセアニアの民族に関する美術造形品が豊富にある。神父が信仰研究により収集した資料も多い。

豊田市の中京大学スポーツミュージアムは令和元年10月にオープンした。名鉄豊田線浄水駅から無料の通学バスが頻繁に出ている。キャンパスは広く浅田真央選手のスケートリンクや室伏氏が練習した陸上競技場まである。オリンピックイヤーであり大学出身のオリンピック選手の活躍に焦点をあてている。



春日井市には中部大学に民族資料博物館がある。JR高蔵寺駅からは西に歩くと土地造成による団地建物が続くが、円福寺・白山神社周辺は昔の面影が残る。さらに西に向かうと丘陵の上に緑に包まれたキャンパスがある。図書館棟の2階に博物館を7年前に開館した。国際関係学部が民族資料を世界から2700点収集して展示している。シルクロード・オセアニアの仮面の蒐集を多くしており文化研究が盛んである。

豊橋市にある愛知大学記念館は豊橋駅から南へ3キロだ。記念館は旧陸軍師団司令部の建物で、その後には大学本部として活用してきた。建物は国の有形文化財に指定されている。この大学は戦前に中国上海にあった東亜同文書院の元学長らが創立した。そのため同文書院の歴史資料を多く収集している。また中国革命家の孫文や大学の生い立ちの資料を展示している。



随筆

おさんどん



20期(陶芸) 広路 冨田 紘八郎

80 翁になり、友人も 3 割程度は鬼籍に入り、他の人は介護施設・病院通いで、社会活動をしている者が少なくなりました。

活動している友人の話で、連れ合いから「貴方は定年制があるが、『主婦の私には定年がない』のはおかしいのでは？」と何時も言われている。我家でも同様な話が出ている。

私も気分の良い時は炊事・洗濯を手伝うようにしている。友人達も毎日の台所仕事(おさんどん)は大変だと言われている。

「おさんどん」は、どの様な意味があるのだろうか、単純な気持ちで調べ始めた。『おさんどん』について広辞苑(岩波書店版)を引くと次のような記述がある。

- ・江戸時代は、武家・商家等で、炊事・掃除等下働きをする下女を指す。
- ・江戸時代まで、三女はおさんと名付けることが多く、
一般的に女は家全体の管理、次女は使用人の管理、
三女は台所の管理を行う事が商家の傾向があった。
- ・一般家庭では、妻が家庭内の雑事・家事・炊事などを行うと記述してある。商家や裕福な家では、台所の下働きをする下女を「おさん」と呼んでいるようだった。
- ・江戸時代の芝居演目で、「心中天綱島」中の紙屋次兵衛の妻がおさん。
- ・徳川時代の大奥は身分により控えの間(御一の間～御三の間)が定められていた。このうち『御三の間』は、台所(炊事・大奥の掃除等)の管理運営し、『御三の間の管理者』はカマドの洒落「下司の老女・下司」を指すと言われていた。
- ・下司の起源は平安時代まで遡ることになり、次のように分類されている。
 - ⊗ 荘園領主の政所で荘園の管理を扱うもの——上司
 - ⊗ 上司と桑園の連絡業務を扱うもの ——中司
 - ⊗ 桑園で土地・民・年貢等の管理・収納・公事(揉め事の裁定等)桑園内部を統治するドンで、平安時代の下司(桑園を管理する役人)を、桑園の民は「殿」と呼んでいたようで少し皮肉った意味もある。殿がなまって「ドン」が用いられた。

西郷隆盛の「さいごうどん」には敬いの意味であるが、「おさんどん」には少し蔑んだ感じがある。

最近友人と話す時に気になる話題の簡単な「言葉の遊びとボケ防止対策」のひとつです。



2020年3月 99号 目次

表紙				
会長挨拶	眞野 晃	30 国際 A		1
行事レポート① 栗きんとん作り	山口 勝弘	30 陶芸		2
② 紅葉の白鳥庭園茶会	水野 晃	32 地域 A		3
③ 16区フェスティバル	高島 善行	32 生活 B		4
④ コンサート鑑賞忘年会	伏屋 満	32 健康 B		5
会員の広場 博物館を楽しむ NO3				
愛知県の大学博物館	細野 博行	31 地域 A		6
随筆 おさんどん	富田紘八郎	20 陶芸		7
目次・訃報・編集後記				8

訃 報

北澤 道子 様 13期文化A 川原学区 重要文化財クラブ
令和元年12月9日(日)ご逝去されました。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編 集 後 記

今回の99号から便りの印刷はネット印刷に切り替えました。全ページがカラー印刷となって皆様にはよりきれいで楽しい紙面をお届けできます。しかし初めての試みでもあり、不都合なことも生じるかと思いますがご容赦願います。

昭和こじょう便りは、今号で99号となります。次号は記念すべき百号です、会員の皆様奮って「会員の広場」などに投稿願います。

昭和鯉城会 「昭和こじょう会便り」 2020年3月99号

発行責任者 眞野 晃
広報委員長 空 席
広報副委員長 杉江 恵理子
広報委員 細野 博行 樋口 敏幸 伏屋 満 高橋 金代
安藤 守

名古屋市高年大学鯉城学園・昭和鯉城会共同発行